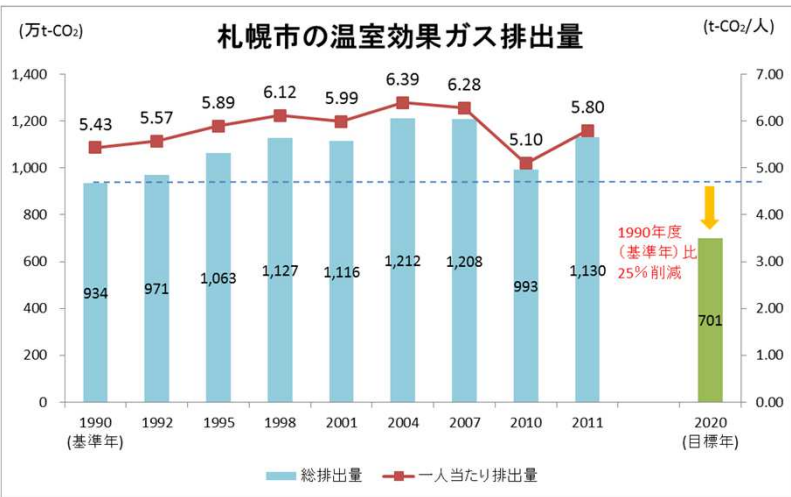


資料 2 札幌市の温室効果ガス排出量の推移

1 札幌市における温室効果ガス排出量の推移



【札幌市温暖化対策推進ビジョンの目標】

2020年に温室効果ガス排出量を1990年比で25%削減

【温室効果ガス排出量の状況】

温室効果ガス排出量の最新値：1,130万t (2011年)

- 1990年(基準年)の934万t-CO₂との比較：+21.0%
- ビジョン策定時の最新値である2007年の1,208万t-CO₂との比較：-6.5%
- 2010年の993万t-CO₂との比較：+13.8%

⇒泊原発の停止に伴う火力発電所の稼働増が主な原因

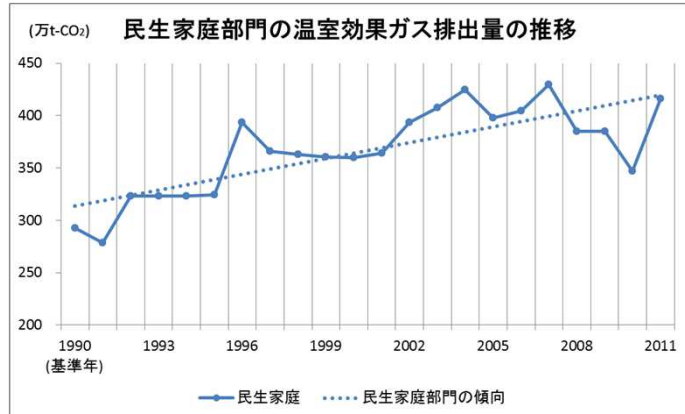
※泊原発が2012年5月6日以降、稼働していないことから、2012年度は温室効果ガス排出量はさらに増加する見込みである。

2 主要3部門における温室効果ガス排出量の推移

民生家庭部門

高効率給湯・暖房機器の普及や、各家庭における節電などの省エネの取組が進んでいるものの、人口や世帯数の増加、家電の大型化・多様化などにより、エネルギー消費量が増加している。

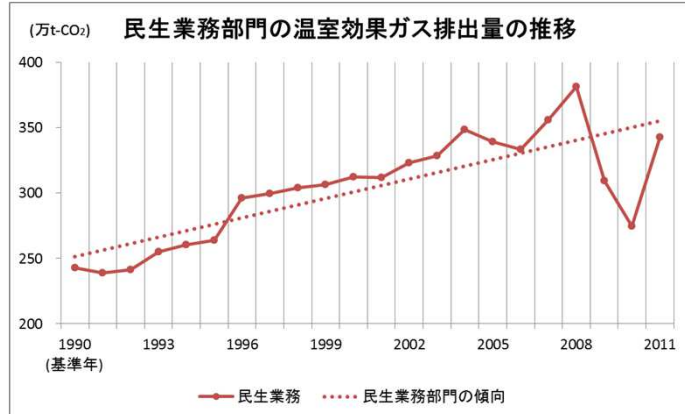
排出量は増加傾向、さらなる取組の推進が必要



民生業務部門

事業者における省エネの取組が進んでいるが、オフィスや店舗等の増加などにより、エネルギー消費量が増加している。

排出量は増加傾向、さらなる取組の推進が必要



運輸部門

自動車の保有台数は横ばいで推移する中、次世代自動車や低燃費車、コンパクトカーなどの割合が増加するとともに、エコドライブが浸透している。

1990年代半ばをピークに排出量は減少傾向
次世代自動車の普及・エコドライブの推進などを継続

